

冒頭の部分はドリア旋法でできている。
G・A・B・C・D・E・Fの音階。
詳しくは楽典の本等で調べてみよう。

バンドのためのトッカータ

comp. by Yasuhide Ito

作曲：伊藤康英

1 Allegro (♩=112ca.)

112よりも速くしすぎないことをおすすめします。8分音符の単位をしっかりと感じて演奏しましょう。

全体的にアーティキュレーションに気を付けて。

Fl.&Picc.

Flutes 1&2
(2nd also Piccolo)Oboe
(optional)Bassoon
(optional)

B♭ Clarinet 1

B♭ Clarinet 2

B♭ Bass Clarinet

E♭ Alto Saxophone

B♭ Tenor Saxophone

E♭ Baritone Saxophone

1 Allegro (♩=112ca.)

F Horns 1&2

B♭ Trumpets 1&2

Trombones 1&2

Euphonium

Tuba

String Bass
(optional)

1 Allegro (♩=112ca.)

Timpani

Percussion 1
(Timpani,
Suspended Cymbal,
2 Tom-toms)Percussion 2
(Glockenspiel, Xylophone,
Vibraphone, Snare Drum, Tom-tom)

ここに重さを置くと、よいフレーズで演奏しやすい。

シンコペーションのリズムをしっかりと。
特に4分音符にはしっかりとしたアクセントを。

ティンパニは3台。G・C・Dで音替えは無しです。

パーカッションは2人で演奏可能ですが、特に Percussion 2 の持ち替えが大変です。人数に余裕がある場合はうまく分けてみてください。
また、もし1人でこのパートを演奏する場合は、無理にマレット・パーカッションを持ち替えなくてもいいように書いてあります。

しっかりとデヌートで、十分に音の長さを保ってください。

9

Fl., Picc. *mf*

Ob. (opt.) *mf*

Bsn. (opt.) *f*

Cl.1 *mf*

Cl.2 *mf*

B.Cl. *f*

A.Sax. *f*

T.Sax. *f*

Bar.Sax. *f*

9

Hrns.1&2 *f* a2

Trps.1&2 *mf*

Trbs.1&2 *f*

Euph. *f*

Tub. *f*

St.Bs. (opt.) *f*

9

Timp. *f*

Glock. *mf*

Vib. (or Glock.) *mf*

6 7 8 9 10 11

パーカッションの人数が少ないようだったら、そのままグロッケンで演奏してください。
ただし、少しやわらかい音色になるように工夫して演奏しましょう。

12

Fl., Picc.

Ob.
(opt.)

Bsn.
(opt.)

Cl.1

Cl.2

B.Cl.

A.Sax.

T.Sax.

Bar.Sax.

Hrns.1&2

Trps.1&2

Trbs.1&2

Euph.

Tub.

St.Bs.
(opt.)

S.Cymb.

Vib.

f

mf

f

mf

mf

f

mf

f

f

mf

mp

この音型が次にどこに引き継がれるか、気を付けてみよう。

12 13 14 15 16 17